

JICA ボランティア ニュース 千葉

SV ニュース 第11号

平成二十一年度通常総会開催

平成二十一年度通常総会が五月十六日(土)午後、千葉市国際交流プラザ(千葉市中央ツインビル)会議室にて開催されました。

会員出席者三十三名、委任状提出者三十九名で、来賓としてJICA 青年海外協力隊事務局長 伊藤隆文氏、国際協力推進員 木野本まゆみ氏、千葉県総合企画部国際室国際交流協力グループ長 宇井隆浩氏、青年海外協力隊千葉OB会会長 吉田憲司氏が出席されました。



JICA会長挨拶に引き続き、JICA伊藤局長より「JICA

Aボランティアの現況と課題」、千葉県国際室宇井グループ長からは「国際協力の原点く日本・メキシコ交流四百年」と題する講演と吉田JOCV千葉OB会長からのご挨拶を受けました。講演の要点は第二頁に掲載してあります。

品川会長が議長を務め、次の議案が上程され、それぞれ原案どおり可決されました。

- 「平成二十年度活動報告」
- 「平成二十年度会計報告」
- 「会計監査報告」
- 「平成二十一年度活動計画」
- 「平成二十一年度予算案」
- 「規約改正案」

「平成二十一年度役員選出」
続いて「広報およびホームページ」を山本副会長と堀端ウエブマスターが、「国際理解(開発)教育」を増田幹事が報告しました。

次いで黒田副会長の司会でJICAおよび千葉県と会員の意見交換が行われました。最後に上田事務局長により新会員の田中 忠昭氏、羽関 総一郎氏、堀 甲子男氏、大久保 邦衛氏、河田 眞智子氏(当日欠席)と再派遣帰国者の寺田 博義氏、浜崎 丘

平成二十一年度定例会日程
日時 十二月五日(土)
午後一時〜四時
引続き懇親会を予定
会場 浦安市国際センター

氏、及川 淳一氏、寺島 得司氏(当日欠席)が紹介されました。

進行司会は黒田副会長、議事書記は大澤トシエ氏と柿沼 豊氏、閉会宣言は山本副会長でした。

閉会宣言後、黒田副会長より七月の第七回帰国報告会の案内とSVニュースへの寄稿要請などが行われました。

総会終了後、会場近くの「美弥和」にて懇親会を行い、三十数名参加の盛会でした。

品川会長挨拶



創立から今年で六年目を迎え、会員数は家族会員を含め九十七名となり、活動範囲も広がり

県内国際交流団体、JICA、JOCV内での存在感が高まっています。各会員は任地で多大の貢献をされ、帰国後は将来の海外援助発展のための社会還元、社会貢献のための献身的努力を行っています。当会は引き続き長期的展望を持ち、質の高いボランティア活動の核となるべく努力を続けたいと思います。



本年四月より千葉県総合企画部長に就任いたしました小川でございます。

県では様々な主体と連携した国際交流・協力を通じて、千葉県の国際化を推進していきます。千葉県JICAシニアボランティアの会の皆様には、JICA出前講座を始め、イベントへの出展や、国際理解推進会議等多岐にわたる活動により、本県の国際化に大きく貢献していただいておりますことに対し、心から敬意を表します。

「JICA シニアボランティア ニュース千葉」に寄せて

千葉県総合企画部 部長 小川 雅 司

本県においては、今後とも県内の豊富な人材、技術等を活かした国際協力を推進していく所存であります。千葉県JICAシニアボランティアの会の皆様方におかれましては、本県の国際化に

対する国際協力を行うところと、当初、障害児教育事業及び水環境改善事業を、主に県が主体となつてスタートしましたが、途中から様々な方々の参加、協力を得て、現在では、大学や高校、市町村、NPOといった多岐にわたる県内機関に国際協力の輪が広がっております。これもひとえに県内の多くの「人財」のご協力によるものであり、心から感謝するとともに、これまでの県の活動が、県内の国際協力ネットワーク構築の一助となったことをうれしく思っております。



総会来賓「挨拶要旨」

JICA青年海外協力隊事務局
事務局長 伊藤 隆文氏



「JICAボランティアの現状と課題」

昨年十月一日にJBIIC円借部門との統合により新JICAが誕生した。統合式典において緒方理事長は有償資金協力(円借款)、無償資金協力、技術協力、とともに、ボランティア事業を第四の柱として位置づけた。

新生JICAの活動指針の一つとして統合効果の發揮を挙げており、積極的にその役割を果たしたい。また、この十年、減少中のODA予算の内今年度の技術協力と無償資金協力予算は減っていないのは明るい兆しの予感がする。なお、事務局は今年九月に麹町へ二度目で最後の移転

を予定している。

JICAボランティア事業の現状として、現在派遣中のボランティアは約三千五十人(うちシニア五百五十人)、二〇〇七年現在の帰国者数は協力隊で三万人を突破し、シニアは間もなく累計四千人を突破する。

本年度のボランティア派遣数は二百人増で、補正予算でさらに百人増え二千二百人となる見込みである。派遣前研修は、二〇〇七年秋から青年海外協力隊とシニアボランティアの駒ヶ根と二本松での合同訓練を実施している。

次に今年(平成二十一年度)春募集の説明会には青年海外協力隊で二十五割、シニアボランティアで三十割増の方々に参加頂いたので、是非応募者のほうも増えることを期待している。

最後にボランティアOB・OGの皆様への期待として、日本の社会の現状をふまえ、開発途上国のためにも、日本のためにも貢献しているJICA事業に一層のご協力をお願いしたい。

シニアボランティアOB・OGの体験、経験を社会還元・社会貢献に活かされ、日本を元気にするよう期待したい。それがこの事業に国が税金を使っている理由の一つであると考える。

千葉県国際交流グループ
グループ長 宇井 隆浩氏



「国際協力の原点と日本・メキシコ交流400周年」

まず貴会の県への協力に礼を申し上げます。

今年(平成二十一年度)は日本・メキシコ交流四百周年にあたるので是非この故事についてのお話をしたい。(資料・千葉県文書館発行 日墨交易四百年の夢)

今から四百年前の一六〇九年九月三十日、フイリピン(当時はメキシコと同様スペイン領であった)からメキシコに向かうドン・ロドリゴ一行三百七十三名を乗せた一艘のガレオン船が御宿沖で遭難、そのうちの三百十七名の乗組員が御宿(岩和田)の村人らに救助された。この村人達の自然発生的で人種、国境を越えた人類愛が四百年経った今も日本とメキシコをつなぐ原動力となっている事を証

明している。ロドリゴの一行は、徳川家康の計らいもあり、翌年、メキシコに帰還することが出来た。

つまり国と国を繋ぐもの(友好関係)は金銭よりも、相手の心に残る人間同士のFace to Faceの外交が必要であると考える。一九七八年メキシコのロペス大統領が御宿町、大多喜町を訪問し、町民に「エルマール(兄弟)よ」と呼びかけたことは、あまりにも有名である。また、この様な史実を残すことの重要性を強調され、ドン・ロドリゴが残した「日本見聞録」の存在が今日の我々に四百年前の事実を思い起こさせる唯一の資料となっている。

現在、日本・メキシコ交流四百周年実行委員会が設立され、二〇〇九年、二〇一〇年をメキシコの年とするべく国を挙げての記念事業を計画している。是非多くの関係者の参加をお願いしたい。

最後に、この「日本とメキシコの交流」がモデルとなり、人間の善意と人類愛こそが国際協力の原点になりうることを全世界に知らしめた

い。千葉県が発祥の地であるこの史実を多くの人に知って頂きたいと、県では広報啓発活動に取り組んでいる。

平成二十一年度役員紹介

五月十六日に開催された総会で平成二十一年度役員として次の諸氏が選出されました。及川淳一氏が新しく就任されました。

会長 品川 洋之助 (鎌ヶ谷市)

副会長 黒田 昭太郎 (柏市)

副会長 山本 茂穂 (広報 千葉市)

幹事 後藤 優 (会計 千葉市)

幹事 増田 定雄 (開発教育 千葉市)

幹事 横田 勝徳 (開発教育 千葉市)

幹事 及川 淳一 (総務 船橋市)

会計監査 酒井 國彦 (千葉市)

事務局長 津田 正臣 (千葉市)

退任 上田 義晴氏



同氏は、永年にわたり、役員として活躍されました。

なお、同氏は本年度第一回役員会において顧問を委嘱されました。

国際理解(開発)教育
推進活動

千葉大学教育学部で
連携授業を実施しました

平成二十一年五月から七月にかけて、千葉大学教育学部吉田教授の受講生を対象に連携授業を実施しました。講義の詳細は左表をご覧ください。

この連携授業は昨年初夏にも行われ、今年が二年目となります。

日時	テーマ	講師
2009/05/26	08:50~10:20 日本国際協力/貢献とボランティア	上田義晴
2009/06/28	08:50~12:00 パラグアイの教育環境の実例	山本茂徳
	12:50~16:00 チュニジアでのSV活動報告	酒井國彦
	16:10~19:20 ラオスでの生活・観察・体験	後藤 優
2009/07/05	08:50~12:00 モンゴルにおける海外ボランティアから学ぶ国際理解	横田勝徳
	12:50~16:00 コスタリカから日本を見る	増田定雄

がシニアボランティア参加の動機、赴任国での活動内容、直面した問題点とそれに対する解決努力、活動による成果などを説明しました。



上段右より上田講師、酒井講師、後藤講師、増田講師
下段右より山本講師

学生たちは熱心に受講、鋭い質問もあり、本年の講義内容も及第点に達したと思われる。



吉田教授の補足講義

吉田雅巳教授より、「シニアボランティア(SV)との連携授業の開発と改善」の狙いに付き、左記の寄稿を戴きました。当会の今後の「国際理解教育活動」の一方向を示唆されております。

昨年度より、千葉県JICAシニアボランティアの会と連携した大学授業開発・実施を千葉大学教育学部の授業を通して行っております。この授業は、「国際教育」をキ

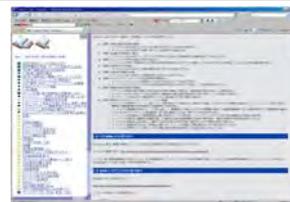
ワードとし、学校教員を目指す学生を対象にした授業です。国際理解、国際開発、国際交流に関する概念理解と技能育成を図るべく、『海外事情と関連指標の理解』という講座名で開講しております。

現在「国際教育」は、将来の国際社会で活躍する日本を担う、すべての児童・生徒が学ぶ必要のある重要な学習内容ですが、それを指導する学校教員には「換言すれば「決して海外で職務を担当することのない」立場からは「極めて実感を持ちにくい指導対象となつています。

従つて、授業では、SVの方々の貴重な経験を単なる事例の外観として紹介するのはなく、学生の意識化した学習対象として事例が理解されることが必要となります。

そのために、まず授業の場で学生が自由にインターネットにアクセスできるようにしています。国際機関や各国政府の公開データへのアクセスを通して、海外事情の理解に必要な、各種統計データの読み取りや、情勢の理解を学びます。

一方、授業でのChalk and Talk(板書筆記に追われる授業)を極力減らすために、eラーニングを活用した授業資料提供を行っています。これにより、授業中、学生たちは、SV講師の話に集中でき



eラーニング画面

ると同時に、自由に世界の情報にアクセスして自分たちの興味を高めたり、深化したりすることが可能です。各SV講師の講義後、学生たちは、学習対象国の人々の「日本に対する期待、要望」について考えます。このような感情移入、必要なデータの収集、予測、創案の知的活動は、高度の認知機能の活用が必要な学習で、「国際」について学ぶ機会に限られた教育学部学生には、貴重な体験となつております。

その結果、昨年度履修した学生の中には、自主的に学習継続して、「国際」に関係した活動したり、海外渡航して資料収集したりするなど、他の授業ではなかなか見ることのできない派生した効果も生まれています。

もちろん、今後も授業の質を精緻することは必要で、運営法については、これで固定することなく、SVの方々と相談のうえ、毎年改善してゆく予定で、時代の変化に対応した「国際教育」の提供を継続して提供できたらと考えております。

国際理解(開発)教育
推進活動(続き)

八街市高齢者学級に出前
講座を行いました

三月二十四日(火)午前、八街市教育委員会 社会教育課 八街市老人福祉センター 高齢者学級に出前講座を実施しました。受講者は約六十名でした。



講師 竹花 晃
会員 テーマ
定年後の第二の人生を考える

旭市に出前講座を行いました

八月二十日(木)、千教研「国際理解教育部会」に出前講座を実施しました。対象は小・中教員約四十名で、シニア海外ボランティア経験談、国際理解教育推進のための情報提供を行いました。



講師 横田勝徳
役員 テーマ
定年後の私の選択

国際理解教育推進会議が
開催されました

三月四日に開催された第一回推進会議でこれからの方向が討議されました。(既報)



これをうけて、第二回会議(四月二十二日 十三名出席)では、①出前講座 ②出前講座 ③出前講座 ④出前講座 ⑤出前講座 ⑥出前講座 ⑦出前講座 ⑧出前講座 ⑨出前講座 ⑩出前講座 ⑪出前講座 ⑫出前講座 ⑬出前講座 ⑭出前講座 ⑮出前講座 ⑯出前講座 ⑰出前講座 ⑱出前講座 ⑲出前講座 ⑳出前講座 ㉑出前講座 ㉒出前講座 ㉓出前講座 ㉔出前講座 ㉕出前講座 ㉖出前講座 ㉗出前講座 ㉘出前講座 ㉙出前講座 ㉚出前講座 ㉛出前講座 ㉜出前講座 ㉝出前講座 ㉞出前講座 ㉟出前講座 ㊱出前講座 ㊲出前講座 ㊳出前講座 ㊴出前講座 ㊵出前講座 ㊶出前講座 ㊷出前講座 ㊸出前講座 ㊹出前講座 ㊺出前講座 ㊻出前講座 ㊼出前講座 ㊽出前講座 ㊾出前講座 ㊿出前講座

経歴の講師紹介をする、②パワーポイントを使いこなす、③講座実施後の評価を把握し改善に役立てる、④出前講座の開拓先として福祉協議会や経済界(商工会議所、ロータリークラブほか)に広げる等多数の有益な意見が出されました。

第三回会議(六月十日十五名出席)では、①リポート要請が出るような、感銘深いプレゼンテーション三例の再講演とその研究、②プレゼンテーション技術のレベルアップの具体的方法の研究、③準備には、受講者の要望を把握した準備をする、現地派遣後の空白時間の情報変化を埋める工夫をする、小中学校ではパワーポイントをうまく使った紙芝居風のプレゼンテー

ションが生徒の関心を引く、等出前講座改善に役立つ多くのアイデアが提案されました。

スキルアップセミナーを実施しました

国際理解開発教育推進会議の一環として、より良い出前講座、注目される質の高い出前講座を提供する目的で、(財)青年海外協力協会(JOICA)から講師派遣を受けてスキルアップセミナーを開催しました。



スキルアップセミナーの実技演習
白板前が JOCA 白木明子講師

八月二十二日(土) 十三時半～十六時半 千葉市国際交流プラザ 参加者は千葉県 JICA シニアボランティアの会員、千葉県青年協力隊 O B 会会員ほかで、講話の内容は受講者を意識した絵や写真を使ったフォトランゲージ手法の紹介、実技と講話技術の訓練など多彩で有益でした。

第七回帰国報告会開催

平成二十一年七月十一日(土)午後一時三十分～四時、千葉市国際交流プラザにおいて JICA 地球ひろばと当会の共催で第七回千葉県 JICA シニアボランティア帰国報告会が開催されました。

千葉県国際室から宇井グループ長が来賓として参加され、一般県民十三名の方々を含め総勢四十二名の参加を得て、内容豊富な報告と活発な質疑応答があり盛会でした。参加された一般県民の方々から次のようなアンケート回答が寄せられました。

- ・パワーポイントをうまく使って、写真入りデータがわかりやすかった。
- ・この三月に定年退職したが、これまでの経験をボランティアで役立てたい。帰国報告を聞き、大変参考になり有難うございました。
- ・海外ボランティアは難しく考えないで、まず実行するという点が参考になった。
- ・シニアボランティアの現地活動写真展を行ってはどうか。

・ JICA のシニアボランティアになった経緯をもっとパワーポイントをうまく使詳しく教えて頂きたい。

今回の報告者は平成二十年夏～二十一年春帰国のシニア

ボランティアで、報告者・報告題名は次のとおりです。

- 大久保 邦衛氏 (チュニジア/水産物加工)
- 「チュニジア水産業の現状と私が見た同国社会状況」 寺田 博義氏 (タイ/生産工学)

「チェンマイでのボランティア生活」

浜崎 丘 氏 (アルゼンチン/環境プロジェクト運営)

「豊かな国アルゼンチン」 吉原 久雄氏 (トルコ/農業一般)

「トルコの大地と人々」

その後の懇親会ではさらにシニアボランティア体験などの話題が盛り上がりました。



参加者より質問



JICA 山本健一郎氏挨拶



総会後の懇親会寸描



寺田博義氏の報告

会員 投稿

トルコの大地と人々

吉原久雄 (トルコ)



トルコと日本の歴史的できごと

トルコ人はとても親日的である。一八九〇年(明治二十三年)九月、トルコ軍艦エルトゥールル号が日本訪問の帰路、台風のため和歌山県串本沖で難破し、五百八十七名の船員が死亡、六十九名が救助され、翌年イスタンブルに送還された。イラン・イラク戦争のさなか、トルコ政府は日本人二百余人をトルコ航空の緊急便でテヘランから救出し、トルコ経由で帰国せしめた。

アンタルヤ県の自然と野菜・果樹生産

トルコの面積は日本の約二・一倍、人口は約六割である。赴任地のアンタルヤはイスタンブルから東南へ飛行機で約一時間の距離。同県の面積は日本の四国より大きく、七十八割は山地、十割が平地、十二割が傾斜地。東西に伸びる地中海の海岸線は約六百km、高級ホテルが約二百五十ある大海浜リゾート地である。同県の気候は地中海式気候、海岸沿いは比較的温暖な



農学部温室のエダマメ 中央が吉原久雄氏

気候(アンタルヤ市の年平均気温十八・五度)、内陸の山間部は気温が下がる。温暖な気候に恵まれて、野菜と果樹の生産が盛ん。日本とほぼ同様の果菜類・葉菜類・根菜類・豆類が国内用と輸出用に栽培されている。大型ガラスハウスなど施設栽培が普及している。

果樹生産は高原部で、リンゴ、西洋梨、ブドウ、マルメロ、カリン、モモ、スモモ、ネクタリン、アーモンド、オリーブ、ザクロ、イチジクなど。海岸部でネーブルオレンジ、マンダリンオレンジ、レモン、バナナが栽培されており、外貨獲得に一役買っている。花卉生産ではカーネーションの生産と輸出が有名。チューリップはトルコが原産地。

アクデニス大学 農学部

創立一九八〇年、農学部、医学部など十三学部の総合大学、アンタルヤにある。学部学生総数約一万七千人(内農学部約千三百人)、大学院生

約三百人(同約百三十人)、教員約六百人(同七十二人)。農学部は学内最大学生数の学部で九学科がある。

任務

- 同大学 農学部で「日本の作物栽培技術」を指導した。
- 1. セミナーと講義は、学部生と大学院生を対象に、
- ① 日本の作物栽培技術…野菜、果樹、畑作物、土壌肥料など
- ② 東南アジアの熱帯農業…野菜、果樹、水稲、サトウキビ、パイナップル、オイルパームなど
- ③ 日本文化について…文化、生活、経済、教育、日本への留学、奨学金制度など
- 2. 新作物の導入は、新作物四種類を導入栽培し、調理法についても紹介
- ① エダマメ…
- アクデニス大学、アンタルヤで始めての試み
- ② ダイズ…
- 高品質ダイズ品種の初めての栽培、ダイズ加工品の紹介
- ③ サツマイモ…
- 高品質サツマイモ品種の初めての栽培
- ④ スイートコーン…
- 適期収穫、朝採り
- 3. 情報と機材類の提供
- ① 情報…
- 日本及び日本の農業について

② 日本の図書…英文雑誌「Farming Japan」、バックナンバー五年分、他に図書とDVD

- ③ 日本の種苗…エダマメ、ダイズ、スイートコーンの種子、サツマイモの苗
- ④ トルコ業者からの提供…鶏糞コンポスト、スイートコーン種子
- 4. 日本とトルコの文化交流
- ① 在トルコ日本大使館 田中大使による「日本の文化」講演会開催
- ② 日本大使館の書記官による「日本留学 奨学金制度」説明会開催
- ③ フェラムズ オズデミール教授と大学院生の「二〇〇七年静岡国際茶学会」参加をアシスト
- ④ 二〇〇八年、JICA研修制度で大学院生を日本に送り出す計画を申請
- ⑤ 二〇〇八年、農学部長 ウズン教授の日本農業視察を企画、実行
- ⑥ 日本文化セミナー開催…二〇〇八年「禅と日本文化」、彫刻家 近藤隆氏
- ⑦ 二〇〇九年、大学院学生セダット氏農業視察で来日、全面アシスト

アンタルヤでの生活

トルコ有数の海浜リゾート地で、多数の歴史遺産のある町での生活を満喫した。私は大学内と市内で多くの方々、

特にパザールと合気道の仲間に変化お世話になった。事故・病気がなく無事に任務終了できたので感謝している。

チェンマイでのボランティア生活 寺田博義(タイ)



二〇〇七年三月から二〇〇九年三月までタイ北部の国立チェンマイ大学で過ごしたボランティア生活について報告します。

活動の主な目的は工学部生産工学科で「自分の経験に基づく特別講義」、「各種イベントへの参加」、「カリキュラムへの助言・指導」を行うことでした。大学での生活では公的な面と私的な面から報告します。

まず、公的な面では大学着任後カウンタートパートから生産工学科の四十以上の授業科目リストから大学側との話し合いで特別講義のテーマを選びました。講義は自分で作った英文のパワーポイントと英語で行い、社会人、学生(院生を含む)そして先生を対象としたものに分け、社会人には隣接するランブーン県の工業団地で働くタイ人を対象に団地内会議室で、学生と先生には大

学の教室で行いました。学生の中には英語が苦手な人もいるため、できるだけユツクリと分かり易い言葉を選んで講義を行うように努めました。



大学で講義中の寺田博義氏

カリキュラムへの助言・指導では英文の「金属工学実習室の設備計画と授業用教材」を作成してきました。

イベントへの参加では新入生を主体とした毎年恒例の仏教寺院への登山参拝などが数多くの催しに参加することができ、特に学生達の両親に次ぐ先生への尊敬の念を感じることができ、日本においては感じ取ることができないものでした。

次に私的な面では、大学が主催する新入生歓迎会、卒業祝賀会、在校生との懇親会への参加や、先生や事務所の方々とタイ人のみぞ知るレストランで幾度となく夕食や昼食を共にして来ました。このときはタイ語と英語を織り交ぜながら日本とタイについて

の様々なことを話題として、お互いに個人的な交流を重ねました。

こうした公私に亘る活動を通じて印象的だったことは、学生をはじめ多くのタイの人達から「笑顔の大切さ」と「絶やさぬ笑顔」を教えるも

らったことです。彼らは人と顔を合わせると、朝、昼、夜いつでも顔の前に両手を合わせて笑顔でサワディーカップ（女性はサワディーカー）と挨拶します。

その時の笑顔が男女とも何とも可愛らしいのです。この笑顔は誰からももらったのだろうか？生まれつきなのか？と思うほどに可愛いのです。

日本では経験したことがありません。私も見習わなければならないと思つた次第です。滞在中には空港占拠事件があり不安でしたが「微笑みの国タイ」では、この笑顔は絶えることがありませんでした。

最後に印象的だったことは、タイ文字はアルファベットにも対応しており、カタカナでの英語対応しかない日本人よりも発音を含めて英語がうまいと思いました。

JICAシニアボランティアとしての活動は異文化理解、相互理解そしてお互いの温かい絆を深める上で、大変重要な役割を担っていることを自覚することができたと同時に、こうしたチャンスを与え色々

お世話頂いたJICAの方々には厚く御礼を申し上げます。

豊かな国アルゼンチン

濱崎 丘 (アルゼンチン)



指導科目「環境プロジェクト運営」について

アルゼンチンはアンデス大山脈、パンパの大平原、イグアス大沙漠、大氷河等豊かな国土を持つ国です。しかしながらこの千百年間に森林伐採等の心無い行為のため、原生林の七四割を失っています。これは、環境教育が国レベルで浸透していないことに起因する、アルゼンチンの人々の環境への無関心さを物語っているといえます。

なぜ環境プロジェクトを？

私は二〇〇七年三月に環境教育財団に派遣されました。この財団は首都ブエノスアイレスで、一七年間環境教育を実践してきたNGO団体です。環境問題の啓蒙普及のためには新たな地方拠点作りが必要と考え、サンルイス州メロロ市にある財団所有の自然保護区において、より実体験的な環境教育プロジェクトを興す事となりました。この場所は絶滅危機にあるコンドルや高山で清水の所のみ育つ

樹木等の希少な動植物相が在り、持続可能な環境教育を実施するには絶好の環境教育条件が整っています。

はスペイン語なのか、あるいはプロジェクトは環境教育と自然保全のどちらに重点を置くのか等、申請の内容に加え、貸借対照表などの財務諸表、活動の実績を証明する刊行物の提出など数多くの付随作業も発生しました。

私は、「環境プロジェクト運営」の指導で派遣されましたが、プロジェクト立ち上げには技術的な支援と共に資金が必要だとも判りました。そこで、財団の展開を主とし、それをJICAの技術とCSRを推進する民間企業の資金とで後押しする官民連携の新たなスキームでプロジェクトを立ち上げることとし、財団は企業の助成金へ応募することを決定しました。

申請書は、まずスペイン語で書き上げそれをベースに日本語に翻訳し、最後は英語版と、三種類の膨大な資料を苦勞しながら全員で作りました。二〇〇八年三月に合格の通知を受けた時の喜びは、言葉では言い表せません。

プロジェクトの資金獲得は？ 応募書類は財団員全十一名が総出で作りに上げることになり、私は考え方の視点と進め方のポイントを指摘すること

プロジェクトはスタートしました 二〇〇八年四月からはメロロ市において、トイレ、太陽光による電源等、環境教育のための基盤整備工事がスタートしました。これと並行して環境教育も九月からスタートしました。助成金が継続する三年間を足掛かりに、財団は自立運営を目標に、一步一步足を固めながら歩き出しています。



深夜まで議論を行うこととパートナー達

でこの作業に参加しました。深夜まで何度も議論を繰り返して、知恵を出し合ったこともありました。記述言語

お断り

今号では記事輻輳のため、大久保邦衛氏(チュニジア)のご寄稿が掲載できませんでした。来年三月発行予定の第十二号に掲載させていただきます。また、他のお三方のご寄稿も、部分的に短縮させていただきます。

会員活動

山野辺会員が居合道で活躍中です

五月三十一日(日)千代田区体育館で開催された中央区居合道大会で、山野辺会員が五段の部のトーナメント競技に出場、準優勝をされました。おめでとうございます。



山野辺会員の勇姿

中央地区は千代田区、中央区、文京区、台東区、都庁、消防庁、防衛庁、警視庁、学生居合道連盟で構成されている由です。

寺島会員が信州大学で講師を勤められました。

寺島会員のご寄稿を紹介いたします。

平成二十一年六月十一日に、母校の信州大学工学部土木工学科(現 社会開発工学科 土木教室)で「土木屋の心意気」と題した二時間三十分の講演を行いました。

私のブータン赴任中に現地滞在了された当講座の豊田助教が、ブータンでJICAシニア海外ボランティア活動の一端に触れ、その活動及び土木屋としての生き方の素晴らしさを是非学生に紹介し、覇気が感じられないと言われている現代学生の意気を少しでも高揚出来ればとの要望の元に実現しました。

当日は担当教官三名を含む約六十名の学生が出席しました。講演は二部構成で、第一部は私が現役時代に経験した海外での大型プロジェクトであるバングラデシユでの河口堰ダム建設プロジェクトの経験、二部はブータンでのJICA海外シニアボランティアとしての道路建設の指導や「世界の笑顔の為に」プログラムを使っての僻地の学校への運道具・音楽楽器の提供の活動を紹介しました。

学生に講演するのが初めてで反応が気になっていましたが、学生達は盛んにメモをとって熱心に聞いてくれました。

最後に行った質疑応答及びReportを読み、今回の講演を通して私が訴えたかった「土木屋としての生き方の素晴らしさ」「土木のあり方」は勿論の事、途上国に於ける土木の実態や途上国が持つ問題点をある程度は理解してくれたようです。



講師を務められる寺島会員

そして何よりうれしかったのが、多くの学生が海外に対して目を開けてくれた事、またある程度インフラが整備された日本よりもインフラ整備が早急に必要な途上国で活動したいと云ってくれた事で、今回の講演の自分なりの目的が達成出来たとともに、多少はJICAシニア海外ボランティア経験者として国内への啓蒙活動に役立つたのではと自負しています。

藤家会員が著書を出版されました

藤家 梓 会員(元千葉県農業総合研究センター長)がシリアでの海外ボランティア経験をもとめ、(社)農山漁村文化協会より出版されました。



柿沼会員が天皇・皇后両陛下のご接見を受けました

ケニアで二年間の柔道指導を終え、昨年帰国された柿沼豊 会員がシニア海外ボランティア等の六名の代表の一人として、三月十九日、JICA 緒方理事長と伊藤青年海外協力隊事務局長の引率の下、皇居にて天皇・皇后両陛下のご接見を受けました。

御接見の感想 柿沼 豊

天皇・皇后両陛下にお目にかかるのは当然生まれて初めて、多少の興奮と緊張はありましたが不思議に不安と言ったものは無く、両陛下に直接お会いしお話が出来る事への心の高揚の方が大きかった気が致します。

両陛下がご接見室に入られて来られた時の印象は、私がテレビを通して拝見し抱いておりました以上にはるかに柔和で温和でそして物静かな知的なお二人でした。常に笑みを絶やされず、我々六名に対してのご質問や語らいも大変公平でやさしいお心配りをされておられた気が致します。

特に驚きましたのは、我々六名のそれぞれの派遣国の知識に關しても誠に豊富で、ボランティア一人ひとりの名前、派遣国名、職種を挙げられご質問された事です。おそらく両陛下は公務ご多忙中に

JICA・JOCCA 関連行事

新シニアボランティア(SV)が県庁を表敬訪問

平成二十年度第四次隊の二名のSVが三月十七日(火)に県庁を訪問、依田 茂 総合企画部長ほかより激励のご挨拶を受けました。当会 山本副会長が同席しました。



後列左より2人目 依田部長、4人目 木内SV (メキシコ)、前列左から1人目 弓 SV (エクアドル)

また、平成二十一年度第一次隊の三名のSVが六月十九日(金)に県庁を訪れ、丸山公太郎 総合企画部次長ほかを表敬訪問をされました。当会



左列左より 菅井民子NSV (ドミニカ共和国)、村田淑子NSV (パラグアイ)、柴崎静江SV (ホンジュラス)

からは品川会長・津田事務局長が同席しました。

JICAシニア海外ボランティア春募集に参加協力

シニア海外ボランティア春募集「体験談&説明会」にパネリスト、よろず相談員として九名の会員が協力しました。新たに柏会場を加えた三会場で開催されました。

千葉会場 四月四日(土)

十時半〜十二時半
京葉銀行文化プラザ
パネリスト…藤家 梓・佐藤 泰助 両会員
よろず相談員…浦山 和良 会員

柏会場 四月十四日(火)

十五時半〜十七時半
アミューゼ柏
パネリスト…大格 登・村上 智通 両会員
よろず相談員…大澤トシエ 会員

船橋会場 四月十八日(土)

十時半〜十二時半
船橋市中央公民館
パネリスト…渡辺 章・羽関 総一郎 両会員
よろず相談員…柿沼 豊 会員

JICA SV 秋募集体験談&説明会 (予告)

千葉会場 十月四日(日)

十時半〜十二時半 (S V)
十四時〜十六時 (J V)
京葉銀行文化プラザ

柏会場 十月五日(月)

十五時半〜十七時半 (S V)
十六時〜二十一時 (J V)
アミューゼ柏

船橋会場 十月二十四日(土)

十時半〜十二時半 (S V)
十四時〜十六時 (J V)
船橋市中央公民館

「第三回協力隊祭り」に出展参加



JICAシニア海外ボランティアの応募相談に応じる当会役員

四月二十五、二十六日、JICA地球ひろばでのJICA主催、JICA共催、外務省後援による「第三回協力隊まつり」に出展参加しました。会場では各国の料理、工芸品・写真の展示、ステーション・パネルディスカッションなどで賑わいました。同時にシニア海外ボランティアと青年海外協力隊の東京地区募集説明会も開催されました。

当会は現地活動写真パネルや紹介パンフレットの展示、シニアボランティア応募相談を行い、堀端・酒井(徳)両会員、品川・黒田・上田・後藤・津田・酒井各役員が参加しました。

自治体フェスティバル・事業参加

グローバルフェスタ Chiba 2009 に出展参加



八月二十三日現在 九十八名
十三日(日) 千葉大学
けやき会館、生協食堂およびテナントで、千葉県、国際ユニセフ

当会(左側)とJOCA千葉OB会ブース
ビュロー、JICA、ユニセフ千葉県支部の主催で「グローバルフェスタChiba 2009」が開催されました。

当会は海外における活動写真展示、国際理解クイズ実施、シニアボランティア応募相談などを行い、忙しく、また楽しい一日

宇井隆浩 千葉県国際交流グループ長が当会ブースを来訪された



でし

会員動静 (敬称略)

会員現状

八月二十三日現在 九十八名

新会員紹介

平成二十二年四月以降の新会員を紹介いたします。

田中 忠昭 (ドミニカ共和国) 船橋市
生産・品質管理

羽関 総一郎 (チュニジア) 船橋市
起業家育成

渡辺 章 (パプアニューギニア) 松戸市
マラリア対策

大久保 邦衛 (チュニジア) 浦安市
水産物加工

河田 真智子 (ネパール) 印旛郡
幼児教育

吉原 久雄 (トルコ) 印西市
農業一般

再派遣帰国者
寺島 得司 (フィジー) 八千代市
土木施工管理

寺田 博義 (タイ) いすみ市
生産工学

濱崎 丘 (アルゼンチン) 柏市
環境プロジェクト運営

反畑 幸治 (タイ) 流山市
ビデオ教材制作

品川 雅子 (スリランカ) 鎌ヶ谷市
日本語指導

再派遣活躍中の方々
須郷 隆雄 (エクアドル) 流山市
経済・市場調査

小松 秀世 (グアテマラ) 大網白里町
水利地質学

鈴木 岳 (カンボジア) 千葉市
都市計画

加藤 哲男 (シリア) 流山市
食品分析・排水処理

木内 良郎 (メキシコ) 茂原市
鉄鋼・非鉄金属

退会者
豊永 俊之氏 佐倉市
橋場 弘長氏 野田市

CCB便り



今年の夏は雨が多かったですね。そして夏が終わるとボランティアの募集が始まります。

海外ボランティアに関心をお持ちの皆様、ぜひ千葉、船橋、柏の各市で開催される「体験談&説明会」にお出で下さい。千葉県JICAシニアボランティアの方々も、パネリストやよろず相談員を担当されます。

JICA国際協力推進員 木野本まゆみ

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。小紙も第十一号を迎え、さらに皆様に密着した紙面づくりを目指しております。本号は八ヶ建てにいたしました。記事が多く、やや窮屈な紙面となりました。ご了承をお願いいたします。(山本茂穂)

本紙へのご意見、ちば出前講座のお問い合わせは下記にお願いします。

千葉県JICAシニアボランティアの会 (The Association of JICA Senior Volunteers in Chiba)
043-255-3810 (山本) shigeho_yamamoto@yahoo.co.jp

千葉県国際協力推進員 043-297-0245 (木野本) jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp